

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度技術情報第6号（飼料作物のツマジロクサヨトウ）について（送付）

奄美地域ではツマジロクサヨトウの幼虫及び成虫、県本土では成虫が確認されました。飼料用トウモロコシ等のほ場では、今後の発生に注意して適切な防除を行ってください。

## 令和元年度技術情報第6号

1 農作物名 飼料用トウモロコシ、ソルガムおよびスイートコーン

2 病害虫名 ツマジロクサヨトウ

### 3 発生状況

成虫：1～3月のフェロモントラップによる誘殺では、奄美地域（喜界町、徳之島町、知名町、与論町）で成虫が確認されている。県本土では、3月3日（枕崎）に成虫が確認された。

幼虫：1～2月のほ場調査では、奄美地域（喜界町、知名町）の飼料用トウモロコシほ場で幼虫が確認されている。

奄美地域ではツマジロクサヨトウの幼虫及び成虫が確認されていることから、越冬しているものと考えられる。県本土（枕崎）で3月に確認された成虫が越冬によるものか、飛来によるものかは不明である。

### 4 防除対策

- ツマジロクサヨトウの食害は飼料用トウモロコシ、ソルガム、スイートコーンで多い。
- 今後、気温の上昇とともに発生が増加すると考えられる。多発すると減収につながることから、生育初期からほ場をよく見回り、幼虫の早期発見に努める。
- 幼虫は、生育初期から中期までの植物に寄生することが多いので、発生を確認した場合は、直ちに農薬による防除を実施する。

### 5 防除上注意すべき事項

- 発生ほ場においては、ツマジロクサヨトウの防除に使用できる農薬の散布を行う。
- 農薬の使用にあたっては、散布は無風又は風が弱い時に行うなど近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して散布予定農薬の種類や散布時期等を事前に連絡するなど、農薬の飛散（ドリフト）に留意する。
- 老齢幼虫では農薬の効果が低下するので、幼虫を確認したら直ちに防除を行う。
- トウモロコシ、ソルガムの混播ほ場では双方に使用できる農薬を選定する。
- ツマジロクサヨトウの発生や防除に関する情報が農水省ホームページに掲載されている（[https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)）



## 6 参考データ



図1 ツマジロクサヨトウ成虫 (♂)

ツマジロクサヨトウ幼虫 (老齢)

表1 ツマジロクサヨトウのフェロモントラップ誘殺状況 (3月6日現在)

市町村	調査結果							
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
指宿市				1	0	0	0	1
鹿屋市		1	0	0	0	0	0	1
大崎町		0	1	0	0	0	0	1
鹿児島市				0	0	0	0	0
霧島市		4	4	0	0	0	0	8
阿久根市				0	0	0	0	0
薩摩川内市		0	0	0	0	0	0	0
枕崎市				3	0	0	1	4
西之表市	4	6	13	2	0	0	0	25
屋久島町			0	5	0	0	0	5
龍郷町	7	9	10	3	0	0	0	29
瀬戸内町			0	0	0	0	0	0
喜界町			0	0	5	7	5	17
徳之島町	5	5	4	3	4	0	1	22
知名町			1	8	2	4	1	16
与論町				3	13	6	8	30
	16	25	33	28	24	17	16	159